

エイズ治療拠点病院医療従事者

海外実地研修報告書

1 研修参加者

所属・職名：伊勢赤十字病院 看護師
氏 名：森尾 志保

2 研修日程・コース

日 程：2012年10月13日（土）～10月28日（日）16日間
コース名：サンフランシスコ／看護師等コース

3 研修の内容

10月13日（土）成田空港発 サンフランシスコ着

10月14日（日）時差調整

10月15日（月）参加者・スタッフ自己紹介、研修コースのオリエンテーション、
ディスカッション「この研修で何を学ぶのか」

研修参加者の期待と研修スタッフの意図を明確にし、共通の視点を捉える
講義「サンフランシスコのエイズケアシステム」

10月16日（火）ワークショップ「ヒューマン・セクシャリティー」

人間のセクシャリティーとは何なのか、またH I Vとの関連について
ワークショップ「エイズ101」

エイズ・H I Vに関する基本的な知識の復習とそれをどう伝えるかの学習

10月17日（水）カイザーパーマネント病院にて

講義「H I V外来でのチーム医療」

外来チームの中でのそれぞれの役割と連携について—看護ケースマネジ
メント、ソーシャルワーク、自己健康管理プログラム、栄養学的ケア、H I
Vカウンセリング

10月18日（木）カイザーパーマネント病院にて

実地研修「H I V外来」

H I V外来におけるチーム医療活動の見学、対人スキルや各職種間のコミ
ュニケーション、情報の均一化、コンピューターの活用

I G Hカンファレンスルームに戻りカイザーでの経験をシェアし、ディスカ
ッションを通して学びを深める

10月19日（金）ワークショップ「モチベーション・カウンセリングのスキル」

午前：H I V診療は長期化・高齢化を伴い、ケアをする側に「患者さんと共
に問題を解決していこうとする姿勢やスキル」が求められる。基本的なカ
ウンセリングのスキルを学び、患者のモチベーションを保っていくために
どのようなことができるか学習

午後：午前に学んだスキルを使ってロールプレイを通して体験学習

10月20日（土）個人学習

10月21日（日）休日

10月22日（月）ワークショップ「感情を聴く力」

効果的な聞き手になるためには、どのようなスキルを必要とするのか、という課題に取り組み、先に学んだ「カウンセリングの基本的な姿勢」を土台にし、人の感情のあり方やその関連性、そしてその言語化を促していくスキルを身につける学習

10月23日（火）ワークショップ「難しい患者の心理面の理解と対応方法」

精神科医、心理学者を交え研修に参加した6人が各施設で対応に困った症例を報告し、追加質問や提案などをしてディスカッションした。

10月24日（水）カウンセリング・ラボ

実践的なスキルの習得を目的としたカウンセリング・ラボ。日常業務の中で考えられる設定を用いて、ロールプレイ実施。その後振り返りを行い学習を深めスキルを習得。

10月25日（木）個人学習「研修のまとめとアクションプランの作成」

研修を終了して、それぞれの職場での活動にこの研修で学んだことをどう活用していくのかを「アクションプラン（課題、行動目標、行動計画、評価方法）」にまとめ上げていく作業を行った。

10月26日（金）個人学習「アクションプランの発表」

各自が作成したアクションプランを発表し、質疑応答
参加者による研修プログラムの評価
終了後、卒業式と認定書の授与

10月27日（土）帰国 サンフランシスコ発 成田空港着

4 研修の成果・感想

参加当初は面識のない人たちとアメリカでの研修ということで不安が大きかったが、参加してみても「参加して良かった」と日々思える研修だった。

講義もただ聴くだけではなく、一つ一つの言葉について各自考えたり、テーマに沿ってディスカッションしたり参加型のものが多かったため内容が濃く、充実した研修だった。

今回の研修で「講義とは教えるものではなく参加した人が何を学びたいかを読み取ること」と学んだ。講義する側が一方的に情報を押し付けても身につかない。今後、人に何かを伝達する際にこの事を心に留めて実施していきたい。

特に印象に残ったのは「感情を聴く」「行動変容」「自己効力感」についての学びである。HIV/AIDSは慢性疾患化し、治療の長期化、患者の高齢化に伴い、心理問題は複雑化している。そのため心理状況や背景を理解することにより効果の高いケアが提供できるといえる。ロールプレイなどを通して聴くこと、心理面へのアプローチを学んだが、これらのスキルは他の患者にも活かせると感じた。

カイザーパーマネント病院では外来での看護師・ソーシャルワーカーの活動を見学したが、患者に対して身を乗り出してアクティブに接し、チーム間で積極的に情報交換していた。また、スタッフが笑顔で澁刺と働いているのが印象的だった。

今回の研修で得たものは研修内容はもちろん、それ以外に他の参加者たちとネットワークがで

きたことである。研修中にも外国語のパンフレットや HIV/AIDS 看護マニュアルを送ってくれると申し出があった。コーディネーターからもこの研修を受けた人は生涯フォローをモットーにしていると言ってもらい何かあればメールで相談できることになっている。当院は患者数が他の研修者の病院よりは少なく、また近隣に HIV/AIDS 患者を受け入れている病院がほとんどないため情報交換や相談できるネットワークができたことは心強い。

また、今回の研修の資料は後日メールで送ってくれることになっているのと、PC 持参で研修内容を PC に打ち込んだので持ち帰る資料類がほとんどなかったことやホテルが Wi-Fi エリアだったため PC の便利さを改めて感じた。

多くのことが学べ、いろいろな人に出会えたことに感謝している。今のモチベーションを維持してアクションプランで立案した病院・病棟での伝達講習、外来との連携を実施していきたい。

今回の研修で感じたことですが、事前に参加者同士連絡を取ればよかったのにと思いました。前回参加者からの情報を交換したり、研修について相談したり、早めに成田空港で集合して顔合わせをすれば出発前の不安が軽減したのではないかと感じました。

『サンフランシスコで16日間』という貴重な体験をさせていただき感謝します。今後の看護に活かし、スタッフに伝達していきたいと思えます。

本当にありがとうございました。